

瑛九（本名：杉田秀夫）は、明治44（1911）年に宮崎市で生まれました。昭和11（1936）年に、カメラを使わず、印画紙に直接物や型紙などを置いて感光させて作るフォト・デッサン（フォトグラム）を瑛九の名で発表し、画壇にデビューしました。瑛九はフォト・デッサンの他にも、油彩や版画など様々な表現に挑戦し、多くの作品を制作しました。

ここでは、現存する最古の油彩である大正14（1925）年の「秋の日曜日」から、昭和34（1959）年の絶筆「つばさ」までの作品を、萌芽期（1925～1930年代前半）、展開・彷徨（ほうこう）期（1930年代後半～40年代）、開花期（1950年代）に分けて紹介します。様々な変遷を遂げた瑛九の画業を、書簡や評論文等、当時の様子が分かる写真資料などとともにご覧ください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	玉井 瑞夫	1923～2014	「メガネと瑛九と」	1952（昭和27）	32.2×25.0	写真
2	瑛九	1911～1960	秋の日曜日	1925（大正14）	23.7×32.9	油彩
3	瑛九	1911～1960	赤い帽子	1926（昭和元）	33.0×23.8	油彩
4	瑛九	1911～1960	タバコを吸う女	1935（昭和10）	32.4×23.7	油彩
5	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集 『眠りの理由』より	1936（昭和11）	21.6×26.6	フォト・デッサン
6	瑛九	1911～1960	題不明	1936（昭和11）	22.6×27.7	フォト・デッサン
7	瑛九	1911～1960	多摩園	不明	55.5×41.0	フォト・デッサン
8	瑛九	1911～1960	題不明	不明	24.1×27.1	水彩
9	瑛九	1911～1960	テラス	1946（昭和21）	22.6×28.8	油彩
10	瑛九	1911～1960	二人	1949（昭和24）	73.2×61.0	油彩
11	瑛九	1911～1960	だだっこ	1954（昭和29）	90.7×64.8	油彩
12	瑛九	1911～1960	眼が回る	1955（昭和30）	53.5×65.1	油彩
13	瑛九	1911～1960	青の動き	1956（昭和31）	53.0×41.2	油彩
14	瑛九	1911～1960	森の中	1957（昭和32）	44.3×51.7	エアブラシ
15	瑛九	1911～1960	あそび	1953-55（昭和28-30）	20.1×25.4	フォト・デッサン
16	細江 英公	1933～2024	瑛九の肖像（浦和の自宅庭）	1952（昭和27）	22.2×17.4	写真

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
17	細江 英公	1933~2024	昼寝する瑛九（浦和の自宅庭）	1952（昭和27）	18.9×19.1	写真
18	瑛九	1911~1960	旅人	1957（昭和32）	37.9×52.4	リトグラフ
19	瑛九	1911~1960	丸のあそび	1958（昭和33）	155.7×91.5	油彩
20	瑛九	1911~1960	群	1958-59（昭和33-34）	97.2×130.2	油彩
21	瑛九	1911~1960	つばさ	1959（昭和34）	259.0×181.8	油彩
22	瑛九	1911~1960	メガフォン	1953（昭和28）	23.2×18.0	エッチング
23	瑛九	1911~1960	山びこ	1953（昭和28）	18.2×12.4	エッチング
24	瑛九	1911~1960	題不明	1953（昭和28）	39.9×27.4	素描
25	瑛九	1911~1960	林の会話	1956（昭和31）	37.3×23.7	リトグラフ
26	瑛九	1911~1960	セロファン・デッサン	1953-54（昭和28-29）頃	29.1×25.3	素描
27	瑛九	1911~1960	ふくろう	不明	28.3×22.6	フォト・デッサン
28	瑛九	1911~1960	作品	1956（昭和31）	28.2×22.7	フォト・デッサン
29	瑛九	1911~1960	題不明	1959（昭和34）	33.1×24.5	素描